

崇城大のギャラリー新装

1期生20年の軌跡たどる記念展



リニューアルオープンした崇城大のギャラリー。
卒業生らの作品が並ぶ＝熊本市中央区花畑町

熊本市中央区の銀座通り
近くにある「崇城大学ギャ
ラリー」は1日、「SOJ
O GALLERY」と名

前を改めてリニューアルオ
ープンした。オープンを記
念し、崇城大芸術学部卒業
生らの作品を展示する展覧

会「画学生から日本画家へ
崇城大学芸術学部1期生
20年のKISEKI」が開
かれている。

芸術学部は2000年に
開設された。ギャラリーで
は学生や卒業生が作品を展
示するなどし、約20年にわ
たり親しまれてきた。熊本
地震で建物が被害を受け、
老朽化も重なり、ギャラリ
ーは19年5月に閉鎖。建て
替え工事などを経てリニ
ューアルした。

展覧会では、彫刻コース
や洋画コースの卒業生らの
作品など計31点が並ぶ。焦

点を当てているのは、芸術
学部の日本画コース1期
生、佐藤和歌子准教授の約
20年の軌跡だ。佐藤准教授

が入学試験で描いたデッサ
ンや在学中の作品、国内最
大の美術展覧会「日展」で
特選に選ばれた絵などを展
示した。

佐藤准教授は「学生のと
きの作品を見られるのは恥
ずかしいけれど、最近の作
品との差を見てほしい。基
礎から学ぶことによって、
技術だけではなく表現も成
長する過程を感じ取っても
らえればうれしい」と話す。

今後は、県内外を問わ
ず、学生や卒業生が芸術作
品を発表する場として使用
する予定だという。

展覧会は7月11日まで、
午前10時から午後6時（最
終日のみ午後4時まで）。
入場無料。（大木理恵子）